

事例集の構成

- 1 目的
- 2 スーパーの実績による分析、解説等(10年間の推移等)
 - (1)母の週数、重症度、転帰、児の転帰、診断後疾患
 - (2)搬送に関する時間(病院選定時間、覚知から病着まで等)、ブロック別搬送元及び搬送先等
- 3 事例紹介、解説(スーパー6病院から各3例程度の症例)
 - (1)事例概要 (2)分娩等の経過 (3)各科からの解説等 (4)考察・総評
- 4 全体の総括

部会での主なご意見

- ・分娩取扱い施設への啓蒙、スーパーシステムにより救命できた事例や改善が望まれる事例(同じ事を繰り返さない)等メッセージ性を決めて症例を出していくべきであり、症例や疾患も多様性が あった方が良い。
- ・特に都で多い症例等の抽出が良いのではないか。
- ・スーパーというバックアップ制度を活用して、一次・二次施設からの早期搬送を促すよう事例を通じて、メッセージを出せると良い。
- ・搬送困難事例が立て続いた後の緊急避難的な措置として開始されたシステムであるが、最後の砦としてスーパーがあるため、協力施設との連携体制も構築され、救急科、産科、新生児科等が協力し、母子を救命するというシステムとしては欠かせない。

<事例案>

- 1 症例からの分類
 - ①救急疾患合併(脳血管障害、急性心疾患、呼吸不全、重症感染症、敗血症ショック、重症外傷)
 - ②産科救急疾患(羊水塞栓症、子癇、妊娠高血圧症候群重症型、HELLP症候群、出血性ショック、産科DIC、意識障害、痙攣発作)
- 2 内容(メッセージ性)からの分類
 - ①スーパー搬送システムにより救命できた事例
 - ②速やかな搬送が必要だったと思われる事例 i 急変時のトリアージ(判断) ii 妊娠経過中のハイリスクの診たて等
 - ③その他周知した方が良くと思われる事例

スケジュール

周産期医療協議会	部会設置承認 (R2.3)	第1回部会報告 (R2.10.26)		部会最終報告 (原案報告)
スーパー母体搬送検証部会		第1回: 事例集構成、対象者、症例分けの検討等 (R2.9.3)	第2回: 事例検討 (R2.11) 第3回: 事例集原案検討 (R3.1)	・協議会での承認等を踏まえ、発行 (R3.3)